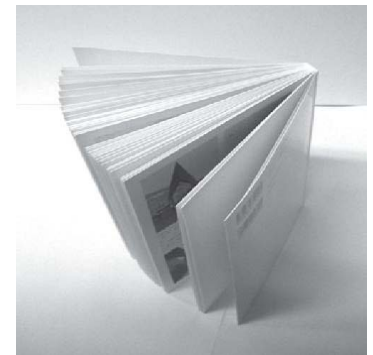
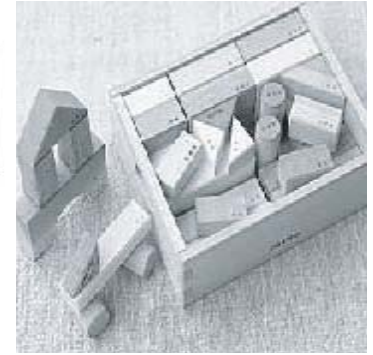


身近なモノ  
から考える

小さくて身近なものから建築を考えはじめてみます。  
例えば、積み木、テーブル、カーテン、ドア、本、帽子、ボールなど。  
日常の中でありふれたものから建築を考え始めてみることに。  
そこにはどんなけんちく世界が広がっていくのでしょうか。



第 14 回夢アイデア まちづくりに関する提案

ここは、熊本県の球磨川のほとりに小さなバンガローです。  
とても景色がきれいなところで、キャンプをしたら最高です。



この建築はとても小さな建築です。  
なので、家具のスケールで建築をつくっていききました。  
ではいったい、家具のスケールで建築をつくと  
どうなるのでしょうか。



家具のような建築は僕たちに何をもたらすのでしょうか。



” 家具”

というと椅子、テーブル、棚 .... などがあります。

お気に入りの家具を持っているという人もたくさんいます。



バルセロナチェア ミース・ファン・デル・ローエ



ノグチ・テーブル イサム・ノグチ

さらにスケールダウンして” 文具” ということになると

さらにお気に入りの文具を持っている人は増えていきます。



ボールペン フランク・ロイド・ライト



シャープペンシル STAEDTLER社



±0 電算機 深澤直人



カドケシ コクヨ

家具や文具は僕たちにとって身近な存在なのです。

僕たちが家具に愛着を感じるのは、小さいスケールで人の身体に合わせて作られているからではないでしょうか。家具のような建築は、触ったり座ったり寝転がったりすることでだんだんと建築に愛着や親しみがわいてきます。

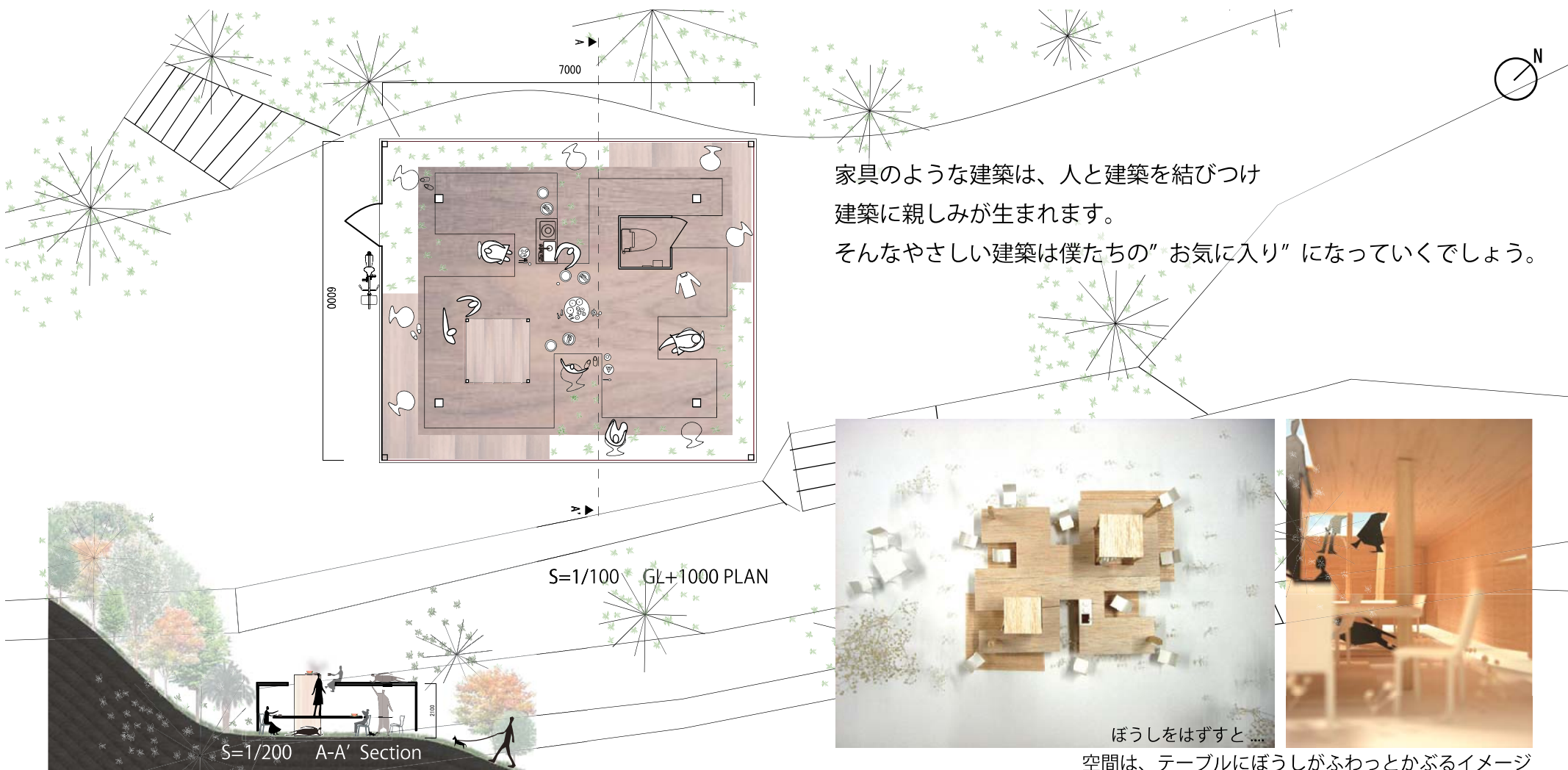


ニューヨーク セントラルパーク



東京 渋谷

街に出て建築を見てみると、人の身体とは無関係につくられた建築がたくさんあります。これでは”お気に入り”の建築なんてできません。



家具のような建築は、人と建築を結びつけ  
建築に親しみが生まれます。  
そんなやさしい建築は僕たちの“お気に入り” になっていくでしょう。

ぼうしをはずすと ...  
空間は、テーブルにぼうしがふわっとかぶるイメージ

びょうぶ。

それは、日本古来からある伝統的なものです。

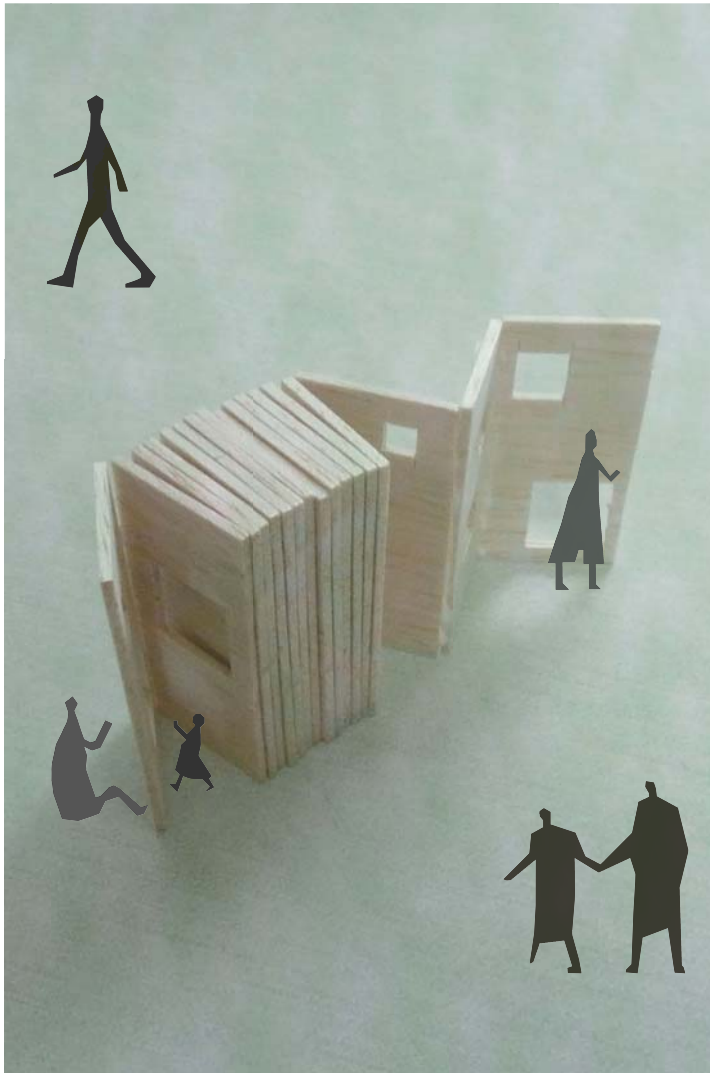
びょうぶは、空間に変化をつけたり、空間をゆるやかに分節させたりすることができます。

そんな、びょうぶが本来もっている特徴を生かして建築に反映させることはできないでしょうか？





第14回夢アイデア まちづくりに関する提案



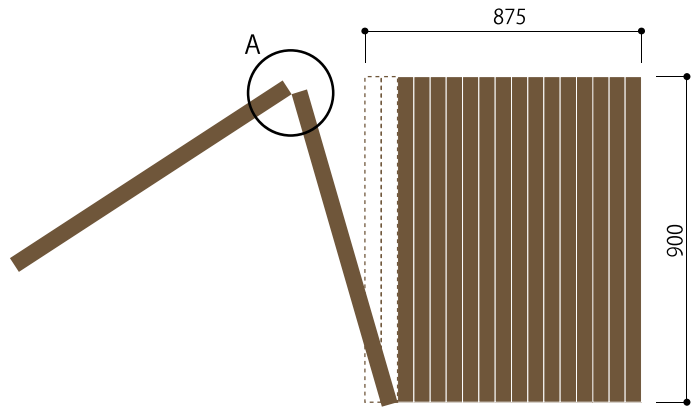
びょうぶをながくながくしてみます。

一枚一枚の戸をぱたぱたと回転移動させることで様々な空間が生まれていきます。

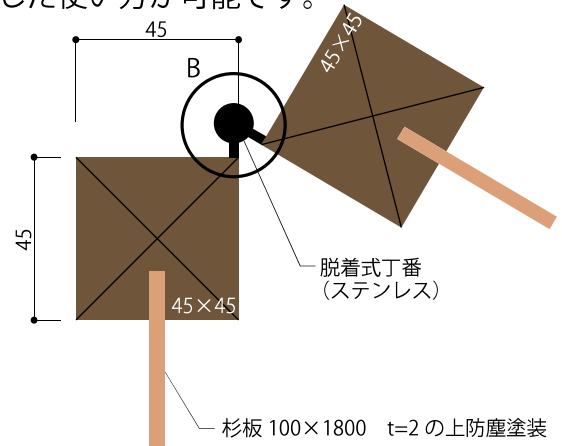
例えば、小さな空間では、子どもたちの秘密基地が生まれたり、中ぐらいの空間では、本を読みふける落ち着いた空間になったり、大きな空間では、あおぞら教室が生まれたり、、、

このびょうぶを通してこの場所に様々なアクティビティを誘発させることができます。

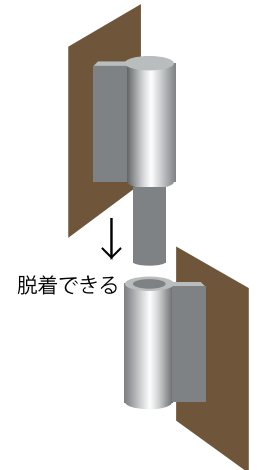
また、びょうぶ一枚一枚が脱着式になっているので、用途に応じた使い方が可能です。



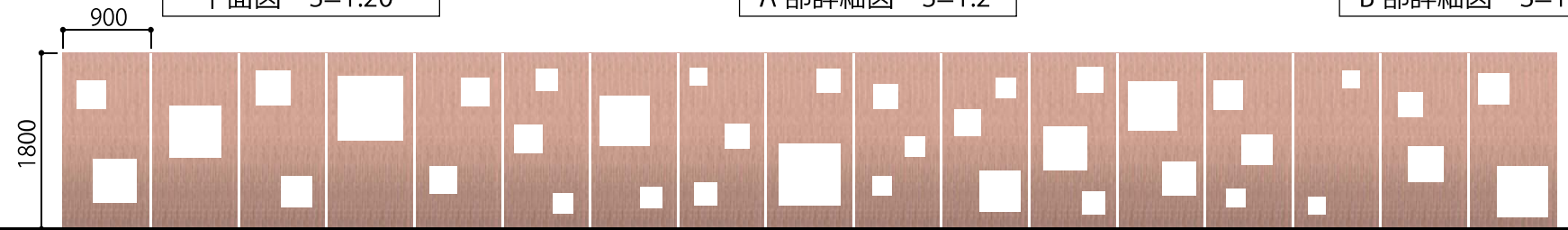
平面図 S=1:20



A部詳細図 S=1:2



B部詳細図 S=1:2



立面図&展開図 S=1:150

### 建具

建具は、部屋と部屋を出入りするときに用いられるものです。

その建具を大きくしたらどうなるでしょうか？

巨大な建具によって生み出される空間は

僕たちに何をもたらすのでしょうか？



とあるマンションの計画です。

ここで暮らす夫婦は社交的で、休日には友人を自宅に呼んでパーティーをすることが生きがいとなっています。

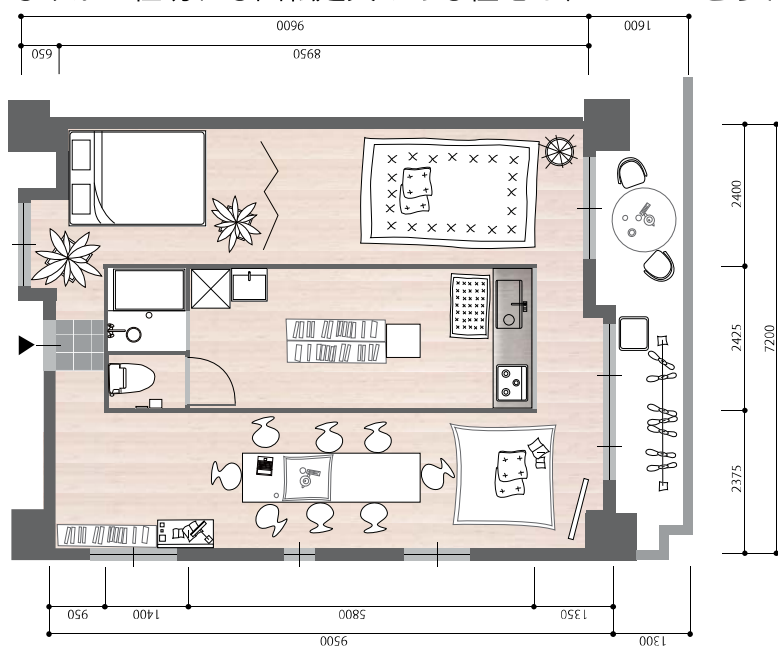
そんな趣味と幼い子どもを持つ夫婦のためのマンションです。

人を招くときは、回転建具を閉じて住宅全体が大きなワンルームのようになり、広いスペースを確保することができます。

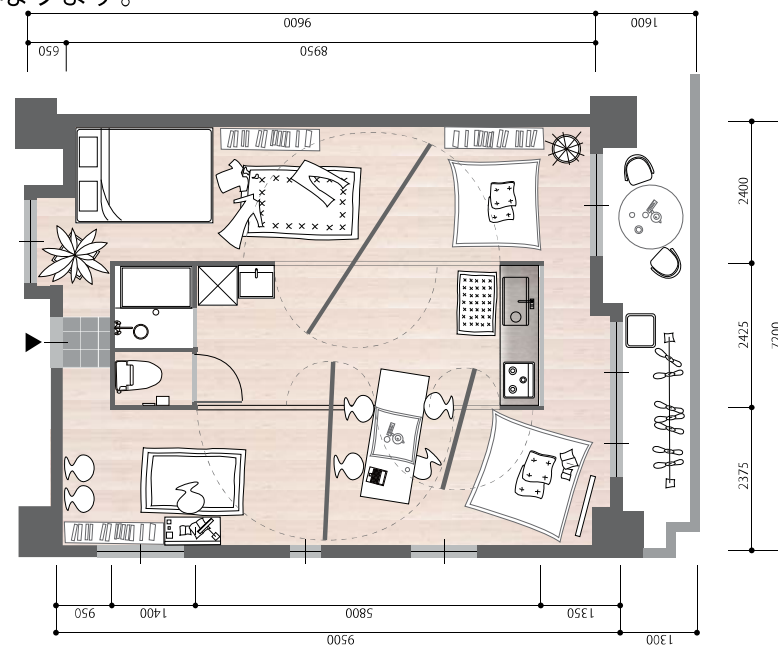
それぞれのプライベートを確保したいときは、回転建具を開いて適度に仕切ることができます。

仕切るといっても、完全に仕切るのではなく、離れていながら繋がっている状態で、家族が何をしているのか、やんわりと認識することができます。

そんなゆるやかに仕切れる回転建具のある住宅は、nLDKにとられない自由な住宅となります。



回転建具を閉じたとき



回転建具を開いたとき



建具を巨大化するということ。  
それは、従来の間仕切りにはない柔軟性と快適性を生み出します。  
間仕切りという概念を変えることでしょう。



目線。

目線というと、

犬の目線、子どもの目線、大人の目線など

さまざまな目線があります。

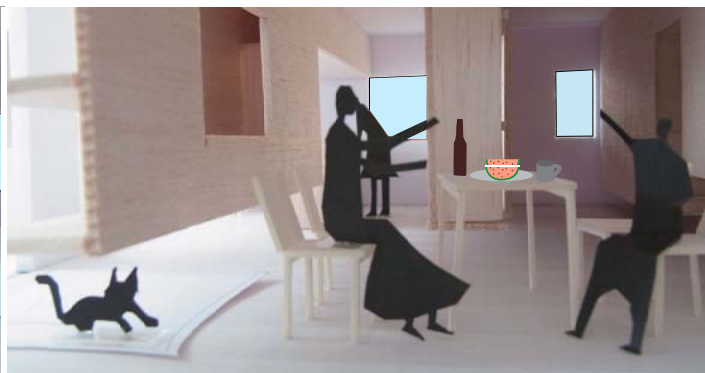
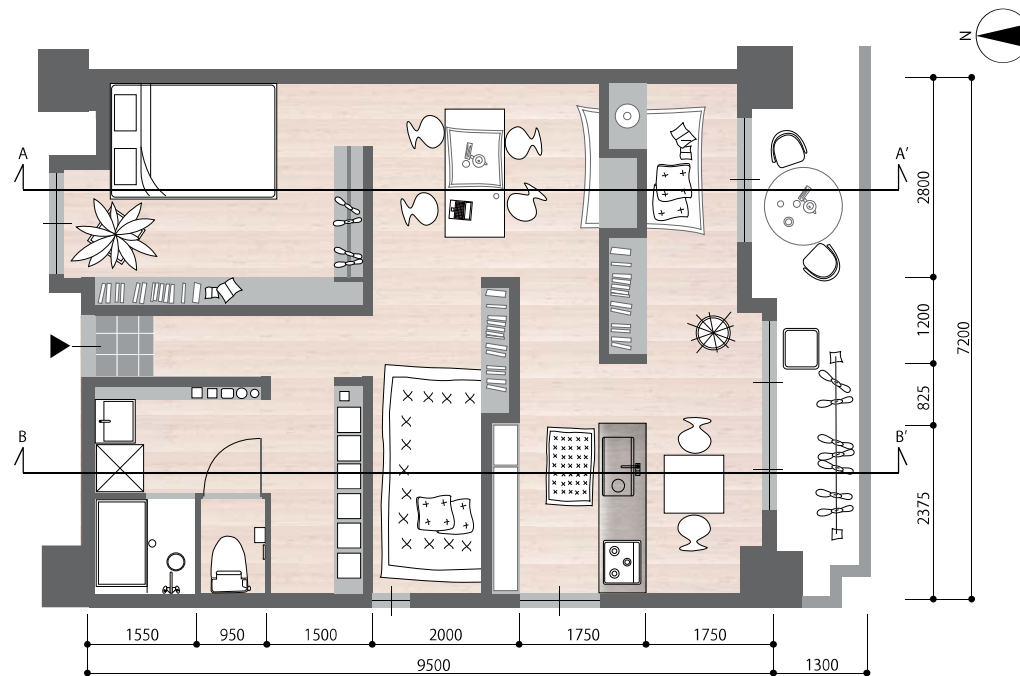
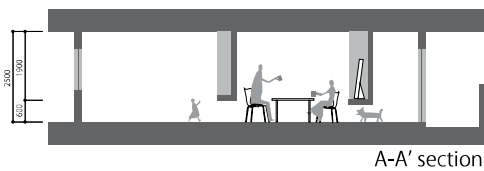
目線に着目した建築。

そんな建築は僕たちになにをもたらすのでしょうか？



低い目線から見たお花畑

目線に着目した建築を構想すること。  
それは、部屋と部屋を完全に分節してしまう機能主義である  
nLDK をゆるやかに崩していきます。



このように、身近なものに着目して建築を設計することは、  
建築をより身近に感じさせることができ、新たな発見が見つかります。

このような考え方は、まちづくりにおいても同じことです。

身近なことに着眼点を置くこと。

大切なことは身近にころがっています。